

(4) 北海道帯広三条高校の資料

- 帯 1 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第1次》
 - 帯 2 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第2次》
 - 帯 3 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施報告書（1年次）
 - 帯 4 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（2年次）
 - 帯 5 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（2年次）
 - 帯 6 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（3年次）
 - 帯 7 全道地学協働活動研究大会発表資料
 - 帯 8 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（3年次）
-

資料 帯 1

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1年次）《第1次》

学校名	北海道帯広三条高等学校
作成日	令和3年6月30日

1 課題把握

(1) これまでの学校と地域の関係・取組

- ・昨年度、地域連携研修主体校として「教育活動の可視化と地域と連携した教科等横断的な学習の推進」をテーマに掲げた研修の実施
- ・帯広市内の近隣小中学校でのインターンシップの実施
- ・3年次選択科目「自己表現」における帯広市役所・十勝振興局と協働した探究活動の実施

(2) 現状における課題

- ・高い学力を持ちながら自主性や主体性が十分発揮できていない本校生の現状
- ・受験指導という名の下での教師主導型授業スタイルからの脱却と、「探究活動は受験には関係がない」という意識を持つ教員の探究活動に対する意欲の低さ
- ・本校生の出身地域の広域性と都市部に位置する高校に特有の地域協働活動に対する教員の意識の希薄さ
- ・単位制の特色である多数の選択科目の開設による融通の利かない時間割

2 仮説検討・テーマ設定・目標設定

(1) 研究仮説

地域と連携・協働した探究的な学びを推進すれば主体的に学ぶ力が身につく、その結果主体的な進路選択と進路実現ができる

【期待する生徒・学校・地域の変容】

- ・探究活動を学びの起点として、高校と上級学校の学びを結び付けることにより、総合型選抜や学校選抜型入試を活用した進学者が増える。
- ・各教科において探究的な学びを取り入れた授業改善が進み、生徒が主体的に学習に取り組むことにより、学力が向上する。
- ・地域社会との連携・協働により、上級学校進学後に本地域を就職先として選択する卒業生が増加し、地域を支える人材を育成することができる。
- ・地域においても、学校と連携・協働することにより、学校教育活動に対する理解が深まる。

【検証方法】

- ・学校評価（保護者・教員）において生徒の自主性や主体性に関する質問項目の設定
- ・各年次において具体的な進路選択を示している割合（経年変化）
- ・生徒による授業評価において「『主体的・対話的』な授業をしている」と回答する割合の推移の比較
- ・外部人材を活用した授業の実施数の比較

資料 帯1

- ・ 総合型選抜・推薦型選抜進学者数の比較
- ・ 模擬試験の成績による学力の比較

(2) 研究テーマ

生徒の進路希望に沿った探究的な学びの推進に向けた都市型の地域協働探究活動のプログラムの構築

(3) 今年度の目標

進路希望に沿った探究活動を推進するためのコンソーシアムの構築と外部人材活用の蓄積

3 研究の具体

(1) 研究内容（選択する項目を■にしてください）

■ 「Collaboration」 【地域・産業界等との連携・推進】

（内容）○都市部における豊富な教育資源を活用することで、生徒の資質・能力を高め、上級学校進学後の自己のキャリア形成の基礎とすることにより、将来地域を支える人材を育成することを目指す。

・ 「自己表現」

帯広市役所・十勝振興局職員と地域課題の解決をテーマとした探究学習

・ 「総合的な探究の時間」

① キャリア探究として各分野の専門家から社会上の喫緊の課題について理解を深める講話

② 課題探究として各分野の専門家と連携したグループ探究学習と発表活動

③ 英語によるコミュニケーション能力を伸ばすためのネイティブとの交流活動

■ 「Literacy」 【学んだことを将来に生かす能力】

（内容）○コンピテンシーの育成を柱に教育活動を教科横断的に展開し、探究的な学びのサイクルを構築する。

- ・ 「総合的な探究の時間」と教科科目・学校行事・LHRとの関連を図り、相互に関連付けた授業を実施する。そのために「単元配列表」で3年間の教育活動を可視化し、さらに具体的な取組を「学びのプラン」として明示する。

□ 「Adult」 【多くの大人が子どもと一緒にあった取組の推進】

（内容）・

・

□ 「Student」 【生徒理解に基づく指導の充実】

（内容）・

・

□ 「System」 【学校と地域の連携・協働の仕組みづくり】

（内容）・

・

(2) 研究成果の普及方法

- ・ HPや報道機関を活用した情報発信
- ・ 授業公開週間での授業公開（コロナ禍収束以降）

(3) 研究のイメージ（概要等）

別添

資料 帯 1

(4) 研究組織

① コンソーシアム構成図

別添

② 校内体制

職 名	氏 名	担当教科・分掌等
校長	合浦 英則	
教頭	藤橋 昌俊	
主幹教諭	池田 昭仁	教務部
教諭	堀口 人士	探究推進部長（理科）
教諭	千葉 澄人	探究推進部（英語科）
教諭	西川 翔太	探究推進部（理科）
教諭	小林 郁美	探究推進部（家庭科）
教諭	小宮 徹	探究推進部（地歴公民科）
教諭	武内 伸行	探究推進部（国語）

4 その他特記すべき事項

帯広三条高校 地学協働活動推進実証事業 研究概要

研究仮説： 地域と連携・協働した探究的な学びを推進すれば主体的に学ぶ力が身につき、その結果主体的な進路選択と進路実現ができる

三条高校が育成を目指す「4つの資質・能力」

- 1 高いコミュニケーション能力を備え、他と協働して課題を解決する力
- 2 知識・技能の確実な習得をもとに、そこから思考・判断・表現する力
- 3 地域に対する理解を深め、そこから広く社会・国際社会を探究する力
- 4 自らの将来について主体的に考え、その実現に向けて努力する力

三条高校が育成を目指す「10の力」

傾聴力	発信力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----	-------	-------	-----



スクールミッション

高い学力と自主・自律的な人間性を身につけ、社会に広く貢献する人間を育成する

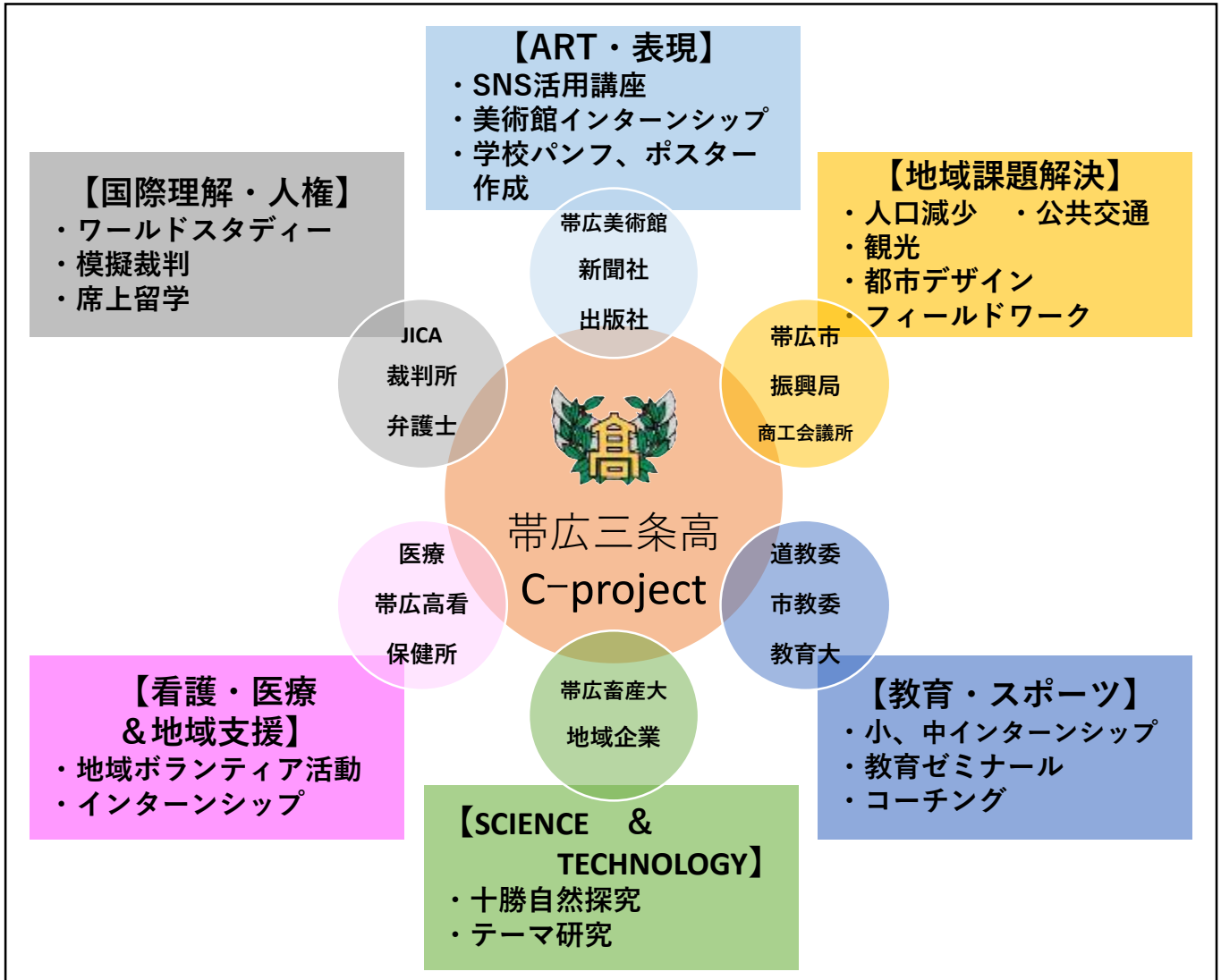
地域の期待				目指す学校像					
1 文武両道の伝統の継承				1 生徒も教師も挑戦し続ける学校					
2 進学による自己実現				2 文武両道をさらに進め、高い学力と健全な心身を育む学校					
3 地域の中核を担う人材育成				3 ダイバーシティ(多様性)を大切に、幅広い進路に対応できる学校					
4 高いレベルでの部活動とそれによる人間的成長				4 地域から信頼され地域の期待に応えられる学校					
三条高校が育成を目指す「4つの資質・能力」									
1 高いコミュニケーション能力を備え、他と協働して課題を解決する力					2 知識・技能の確実な習得をもとに、そこから思考・判断・表現する力				
3 地域に対する理解を深め、そこから広く社会・国際社会を探究する力					4 自らの将来について主体的に考え、その実現に向けて努力する力				
三条高校が育成を目指す「10の力」									
傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力

○ 「総合的な探究の時間（C-Project）」

⇒生徒の好奇心や探究心を大切に、自ら主体的に学びに向かう力を育成するために、探究型プログラムを地域と一体となって進めていく。

⇒コンソーシアムを組織し、学校と地域が協働し持続的に人材育成にあたる。

【SDGsを踏まえた十勝と未来を創造するコンソーシアム】



資料 帯2

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1年次） 《第2次》

学校名	北海道帯広三条高等学校
作成日	令和3年9月28日

1 3年間の目標

地域との連携・協働した探究的な学びを推進することにより、進路目標が明確になり主体的に学ぶ姿勢が養われることで学力の向上が図られ、自らが望む進路実現を果たす。

2 年次ごとの目標と取組計画

月	取組
1年次 (R3)	(目標) ・探究コンソーシアムの構築 ・地域人材を活用した探究的な授業実践の蓄積 ・コーディネーターを中心とした校内組織の確立 (主な取組) ・3年選択授業「自己表現」での外部人材活用 ・授業や課外活動（進路講話）での外部人材活用 ・「総合的な探究の時間」での探究活動推進 (検証の項目) ※定量及び定性 ・授業評価における「『主体的・対話的』な授業をしている」率 ・外部人材活用授業数 ・授業振り返りシート
2年次 (R4) 【予定】	(目標) ・1年次における学年全体での探究プログラム構築 ・2年次における類型別探究活動プログラム構築 (主な取組) ・1年次における地域課題探究活動 ・2年次における類型別探究活動 (検証の項目) ※定量及び定性 ・進路別外部人材による進路講話数 ・年次全体での探究活動の評価（生徒・教員・外部）
3年次 (R5) 【予定】	(目標) ・探究活動を生かした進学実績 ・3年次探究活動構築 (主な取組) ・個人での探究活動 ・大学との多様な連携活動 (検証の項目) ※定量及び定性 ・総合型・学校推薦型選抜合格者数 ・生徒探究アンケートの経年比較

3 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
授業評価における「『主体的・対話的』な授業をしている」率	授業評価アンケートによる昨年度との比較

資料 帯 2

外部人材活用授業数と教員の意識	教員アンケート
生徒の意識変容	授業振り返りシート

4 今年度（令和3年度）の計画

月	取 組
4	探究ガイダンス（1年）、地域課題探究（3年「自己表現」）
6	美術館と対話型鑑賞（3年「自己表現」）
7	帯広大谷短大との連携でビブリオバトル（3年「自己表現」）
8	2年次英語交流活動開始（2年「探究」）
9	第1回コンソーシアム会議 帯広市役所都市政策課講話（2年「現代社会」）
10	2年次英語交流活動（2年「探究」） 中学生向け学校説明会企画運営（3年「自己表現」）
12	地域課題探究発表会（3年「自己表現」）
1	生徒・教員アンケート実施
2	第2回コンソーシアム会議
3	来年度計画作成

5 その他特記すべき事項

--